

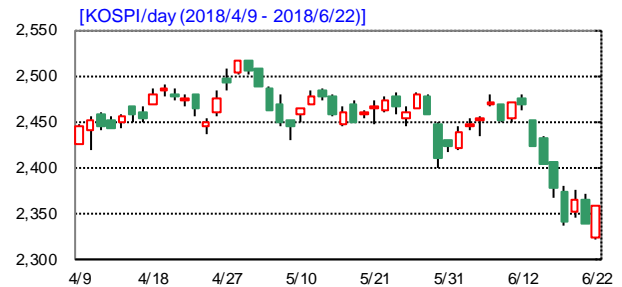


【韓国】 総合指数は週間で 1.9%安と続落、今週も米中通商問題を意識か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.9%安と続落。米中貿易摩擦の激化が世界経済に悪影響を及ぼすとの警戒感が強まる中、総じて売りが優勢な展開だった。指数は前週後半からの軟調な流れを引き継ぎ、週初の 18 日に節目の 2400 ポイントを下回ると、19 日まで 5 営業日続落。週中の 20 日は反発したものの、21 日は 2017 年 9 月以来、およそ 9 カ月半ぶりの安値圏まで下落。米中貿易摩擦でリスクを取りにくくなった海外投資家が韓国から投資資金を引き揚げるとの見方が強まった。22 日は主力のハイテクや自動車を中心に割安感を意識した買い戻しが入ったが、上昇の勢いは限られた。今週は引き続き米中の通商問題を念頭に上値が重い展開か。国内では 26 日に消費者信頼感、29 日に景況判断や鉱工業生産などが発表される予定。

▼指数チャート

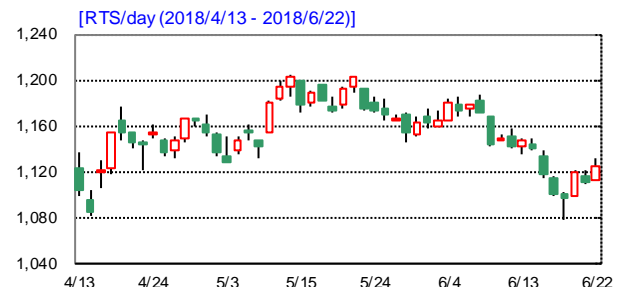


【ロシア】 RTS 指数は週間で 0.7%高と 6 週ぶりに反発、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は 0.7%高と 6 週ぶりに反発。米中貿易摩擦激化を嫌気し 10 週ぶりの安値水準まで売られたが、その後反発すると、原油高も追い風にプラス圏を回復した。米中貿易戦争の激化懸念を背景に通貨ルーブルが対ドルで 7 週ぶりの安値水準まで下落。指数も 19 日に前週末比 3.5%安となる 1077.52 ドルまで下落し 10 週ぶりの安値をつけた。しかし、その後は貿易戦争への警戒感がやや緩んだことで、ルーブルとともにロシア株も買い戻された。週末は原油高を好感し続伸。OPEC 総会では原油増産が決まったが、実質増産量が予想を下回ったことで原油相場が急伸した。RTS 指数は週前半の下落分を取り戻し、22 日は 1125.41 ドルで週の取引を終えている。今週は通商摩擦問題や原油相場をにらんだ神経質な展開か。

▼指数チャート

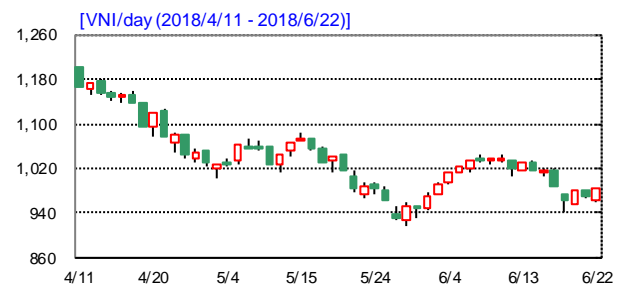


【ベトナム】 VN 指数は週間で 3.3%安と大幅続落、今週も資金流出懸念が重しに

先週の動き／今週の展望

VN 指数は 3.3%安と大幅続落。米中貿易摩擦への懸念が投資家心理を悪化させたほか、通貨安を受けて資金流出懸念が強まったこともベトナム株の重しとなった。週明け 18 日は激化する米中貿易摩擦への懸念が投資家心理を冷やし、指数は前週末比 2.9%安と大幅に下落してスタート。約半月ぶりに 1000 ポイントの大台を割り込んだ。19 日も 2.6%安と大幅続落し、5 月 30 日以来の安値で引けている。20 日は米中貿易戦争への警戒感が緩んだことで 2.0%高と反発したが、通貨ドンが対ドルで安値更新を続けたことで資金流出懸念が強まり、週後半は上下にもみ合った。指数は前週の 2.2%安に続き 3.3%安と続落し、年初来では 0.1%安とマイナス圏に転落した。今週は通貨安を背景に資金流出懸念が引き続き重しとなるか。

▼指数チャート

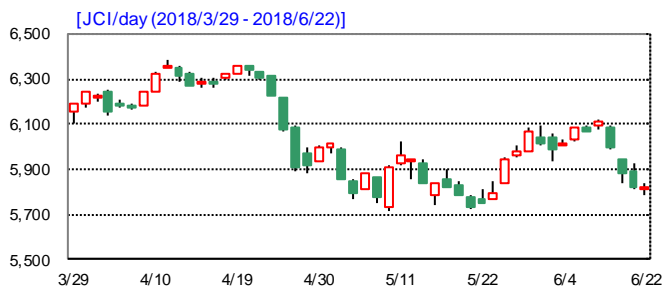


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 2.9%安、今週は 5 月の貿易統計に注目

ジャカルタ総合指数は 3 日間の取引で、連休前の 8 日に比べ 2.9%安。国内の経済イベントが少ない中、米中貿易摩擦の激化が指数を押し下げた。連休明けの 20 日は金融株が売られて、指数は終値で前営業日比 1.8%安と続落。21 日は為替相場場でドルに対するルピア安が進んだことなどが嫌気されて、さらに 1.0%下落した。22 日は米中の貿易問題が企業業績に及ぼす影響が懸念されて小幅ながら 4 営業日続落し、終値で 1 カ月ぶりの安値を更新して引けた。今週は 25 日に 5 月の貿易統計が発表されるほか、28 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。ルピア安が一服すれば、指数は底堅く推移か。

▼指数チャート

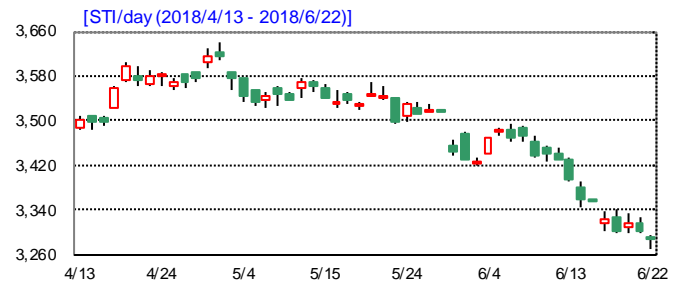


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.1%安、今週は 5 月の CPI と鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.1%安と続落。総じて軟調な値動きだった。週初の 18 日は、5 月の非石油地場輸出が前年同月比 15.5%と市場予想から大幅に上振れたものの買い材料にならず、指数は終値で前営業日比 1.0%下落。19 日まで 5 営業日続落した後、20 日はいったん反発したが、21 日に反落すると 22 日には終値で約 8 カ月ぶりに 3300 ポイントを割り込んで取引を終えた。今週は 25 日に 5 月の CPI、26 日に鉱工業生産が発表される。鉱工業生産が市場予想の前年同月比 10.2%増を上回るかが焦点。外部要因では原油価格の回復を受けて前週末の NY ダウが 9 営業日ぶりに反発した効果が期待される。

▼指数チャート

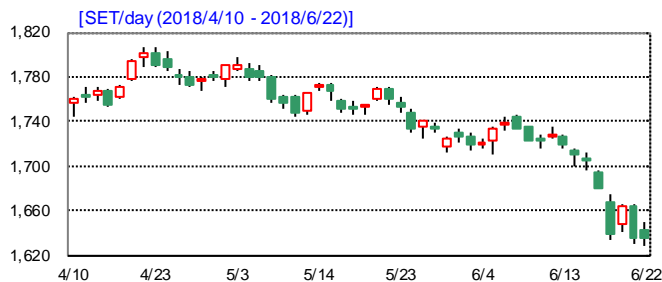


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 4.1%安、17 年 9 月以来の安値を更新

SET 指数は週間で 4.1%安と続落。不安定な値動きが続いた 1 週間だった。週初の 18 日は、世界経済の先行き不透明感から原油の需要減少に対する懸念が高まり価格が下落した影響で、エネルギー株が指数を押し下げ、終値で前営業日比 1.5%安。19 日は米中の関税を巡る応酬が嫌気されて、さらに 2.4%下落したが、20 日は中央銀行が定例の金融政策決定会合で、今年の GDP 成長率の見通しを上方修正したことを受けて前日比 1.5%高と 6 営業日ぶりに反発した。ただ、21 日は 1.8%安と再び反落し、終値で 17 年 9 月以来の安値を更新した。今週は 29 日に 5 月の鉱工業生産と 4 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート

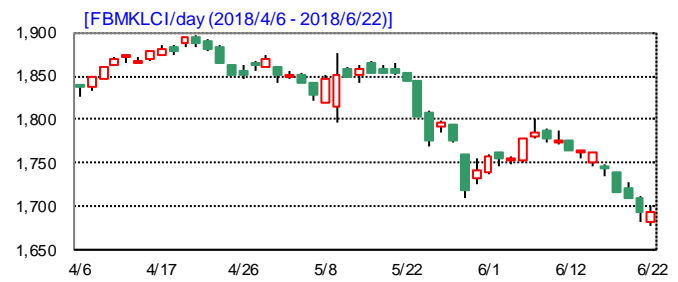


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 3.8%安、今週は為替の動向が焦点

クアラルンプール総合指数は週間で 3.8%安と続落。ドルに対するリンギ安の進行と外国人投資家による売りが痛手だった。週初の 18 日は米中貿易摩擦の激化に加え、為替相場場で 1 ドルが 4.0 リンギを突破したことが嫌気されて指数は終値で前営業日比 1.0%安。19 日はさらに 1.6%下落して下値を広げると、21 日には終値で 1700 ポイントを割り込み、17 年 2 月以来の安値を更新した。一方、22 日はマハティール首相がリンギの公正な水準について 1 ドル=3.8 リンギとの見解を示したことを受けて小幅ながら 10 営業日ぶりに反発した。今週はリンギ安に歯止めがかかれば株式相場の下支え材料になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。